



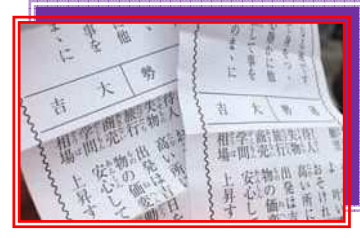
Have A Happy New Year
2019

亥
謹賀新年

ロータス林の
わくわく通信
今年も直しくお願ひします

明けまして
おめでと
ございます
1月号
平成31年1月10日刊行
第171号

さて、今年、年始に行われた佐古地区新年互礼会に、徳島県知事・飯泉嘉門さんがご来賓で来てくださったってました。知事のお話には、今年の干支は、「亥」の中でも、「巳亥」サチノト・イ」の年で、「巳」は「絶」に通じ、乱れをしつかり正し、「亥」は「核」と同義で、エネルギーをギュッと凝縮するとされ、したがって「巳亥」は、これまででの乱れを収め、次世代に向けて新たなスタートを切る年」と仰っておられました。知事さんの力強いリーダーシップで、徳島県にとっても新時代の光輝く幕開けとなり街が活性化しますように。それでは、今年、今月、嬉しい事が亥っぱいありますように！



初詣のおみくじは
夫婦そろって大吉でした！
「一年間
吉が続きますように」

新春のお慶びを申しあげます。旧年中は、ひとかたならぬご厚情を賜り誠にありがとうございました。本年も 亥っぱ前を目指しますので倍旧のご愛顧のほどひとえにお願い申し上げます。



お陰様で
今年8月8日に、満60歳を迎えます！
猪突猛進で頑張ります！



ぼたん鍋 (猪鍋・ししなべ)



猪の肉に、白菜、人参、小芋、菊菜にシタケ、こんにゃくなどの具材を加えた鍋を「ぼたん鍋」と言い、縄文時代からよく食べられていたそうです。

ちなみに、シカの肉はもみじ鍋、馬の肉は桜鍋という呼称があり、もみじ鍋は、花札の10月が鹿の柄で、肉食を禁じられていた僧侶などが隠語として用いたそうです。一方、馬の肉を使った鍋の桜鍋という呼称は、ヘモグロビンやミオグロミンが多い赤みの部分が空気に触れると桜色となることや、馬肉の切り身が桜の花びらのようだという説もあるそうです、栄養価が高く、滋養強壮、薬効にもなるというぼたん鍋、冬に一度は食べときたいですね。



干支パン

パン好きの私が毎年紹介している干支パン。今年も、ホームメイドやドンクのパンなど、様々なデザインがアップされてました。かわいいですね♡

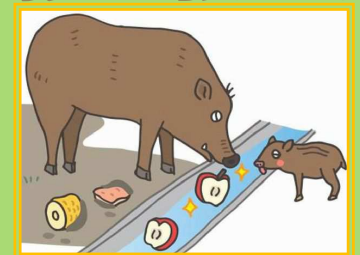


「戌」から「亥」へ 通天閣で引き継ぎ式



大坂通天閣で12月27日、年末恒例の干支の引き継ぎ式があったそうです。「亥」の一番に景気回復を！と「戌」から「亥」へバトンタッチしたそうです。ブヒッ！

= 猪の独り言 =



いきものたちの厳しい生態やオキテを、動物たちが自分の言葉で説き、解消策ともなる格言が示されている「ブラックないきもの図鑑」から猪をご紹介します。ニイノシシ・メス・3歳・トウモロコシ好き＝「私、色々ありまして、今は動物園にお世話になっています。皆さん仲良くして下さいんですけど、一つだけ不満があるんです。

あの、リンゴとか鶏肉とか、えさをくれるじゃないですか。それは嬉しいんですけど、地面に投げ捨てるのをやめてくれませんか？ 断面にすごい砂が付くんですよ。食べた時、口の中がジャリッとするじゃないですか。あれ、本当に嫌なんですよね。だから私、一つ一つ水場に運んで洗ってから食べてるんですよ。」

スイスの動物園で暮らすイノシシは、砂の付いたリンゴを園内の小川まで運んでいき30秒ほど洗ってから食べるそうです。猪って、きれい好きなんですね。ブラックないきもの図鑑、お子様にオススメの図書です。



映画「もののけ姫」

毎年の一月号のわくわく通信は、その年の干支にちなんだ話題をお送りしていて、猪が出てくるアニメといえば、「もののけ姫」。役柄は「乙事主（オッコトヌシ）」。

- ・4本牙を持つ巨大な白い猪神
- ・五百歳の最長老
- ・目は見えないが、嗅覚と洞察力が鋭い
- ・九州からシシ神の森を守るために海を越えてやってきた

「乙事主（オッコトヌシ）」の名称の由来は、宮崎監督の別荘がある長野県の地名「諏訪郡富士見町乙事」が由来だそうです。「乙事主（オッコトヌシ）」が、人間によって殺される立場になり、その時生まれる憎悪と恐怖で祟り神に変貌する瞬間、血が流れ瀕死の状態でおどろおどろしかったですね。



主人公のサンが、どうして森で住んでいるかということ、森を切り開く人間が神の怒りを鎮めるための生贄でサンを森に捨て、その後、犬神（モロ）が育てたんだそうです。

モロにとっては、憎むべき人間でありながら可愛い娘。種を超えた愛、自然と人間の共生を描く、何とも奥深い難しいアニメです。